

関西の景気について

大阪商工会議所 経済産業部

概 況

関西の景気は、輸出と設備投資を牽引役として、全体としては堅調に推移してきたが、原油・原材料高や円高が続く中、設備投資に減速感が見え始めるなど、企業部門の下振れが表面化しつつある。また、大阪商工会議所が関西経済連合会と実施した「経営・経済動向調査」でも、1～3月期の在阪企業の自社業況は、大きくマイナスに落ち込み、先行きも弱い。

急速な円高前ではあるが、輸出は、中国を始めとするアジア向けの携帯電話部品などが、引き続き好調で、70カ月連続でプラスを記録。輸入は、資源高による原油や天然ガス、非鉄金属などの単価上昇を受けて、4カ月連続でプラスになった。

個人消費は、ガソリンや食品の値上げなどによる消費者心理の冷え込みもあり、回復の動きは鈍い。百貨店・スーパーなど大型小売店では、初売りの福袋が順調だったものの、クリアランスセールが低調で主力の衣料品が伸びず、売上げ減となっている。

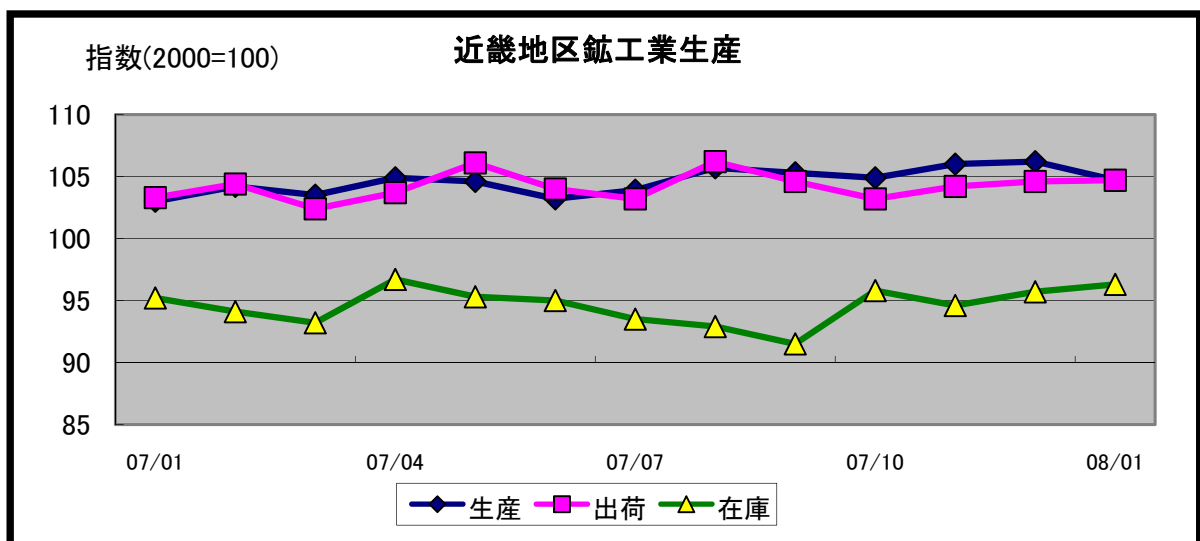
建設関係では、新設住宅着工戸数が、改正建築基準法の影響が長期化し、7カ月連続で減少するとともに、公共工事請負金額は、前年の関空2期島埋立て工事の反動減などを受け、5カ月連続でマイナス。企業倒産件数（2月）は、これら不振材料の影響を受けた建設業をはじめ、原油高による影響を受けやすい運輸業を中心に増加し、また、企業規模から見ると、体力に劣る小規模企業での倒産が続いている。

また、雇用情勢については、失業率は横ばいだが、有効求人倍率は2カ月連続で1倍台を割り込み、やや陰りが差している。

（※ 数字はとくに断りがない限り、1月のデータ・対前年同月比）

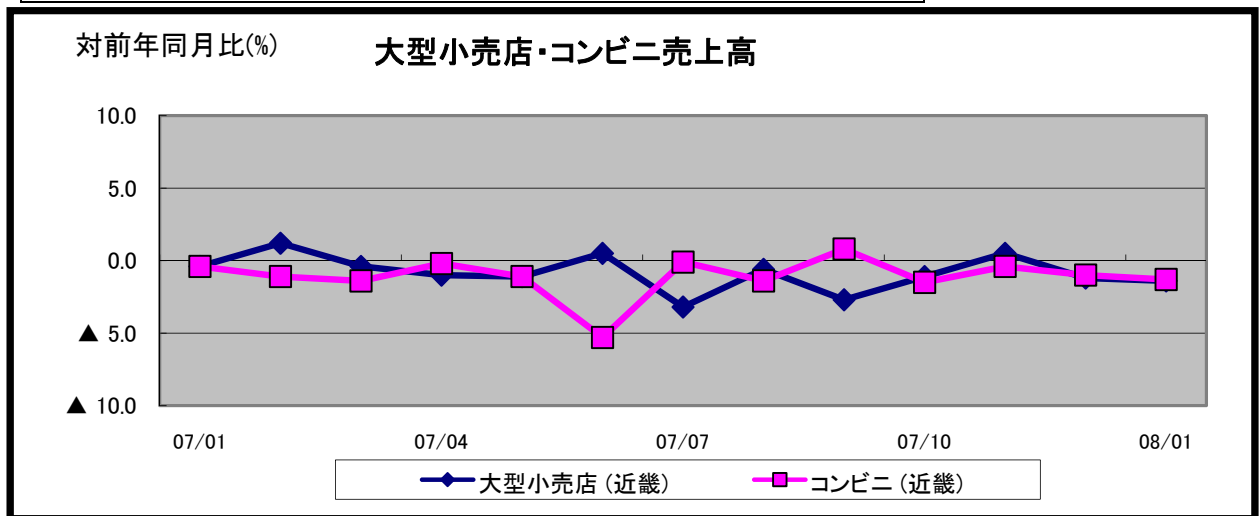
●鉱工業生産（近畿経済産業局調べ）

概ね横ばいで推移



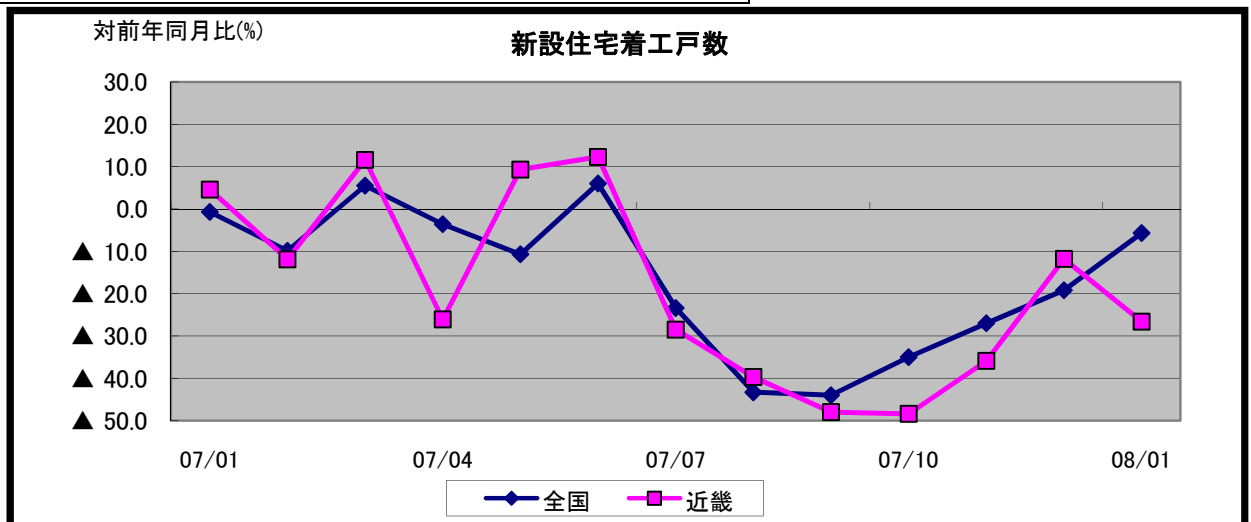
●個人消費（経済産業省調べ）

大型小売店は2カ月連続マイナス、コンビニも4カ月連続マイナス



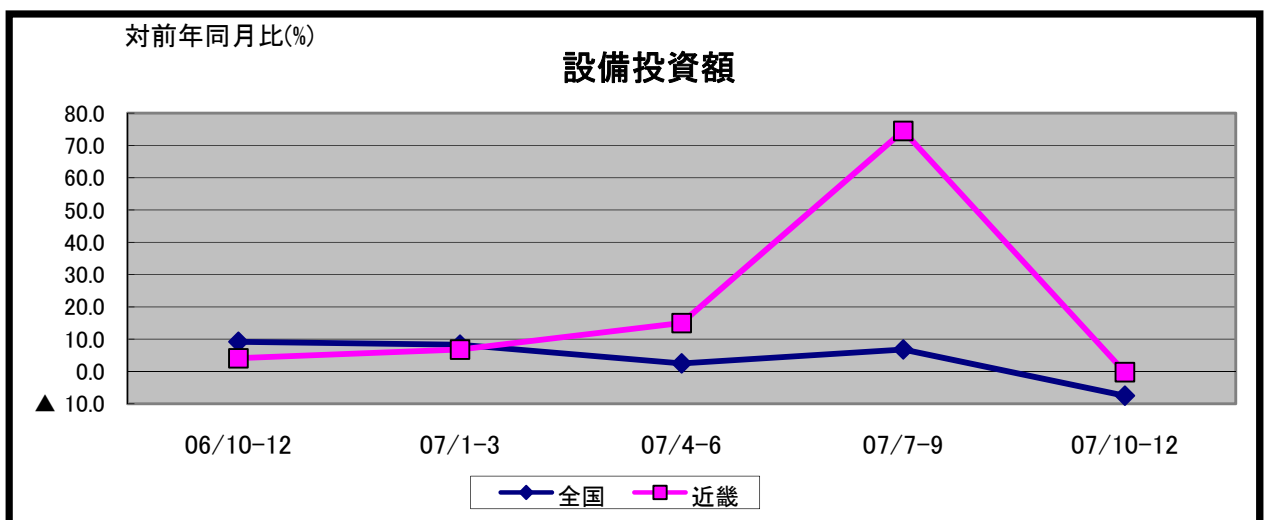
●住宅投資（国土交通省調べ）

改正建築基準法の影響を受け、7カ月連続で落ち込む。



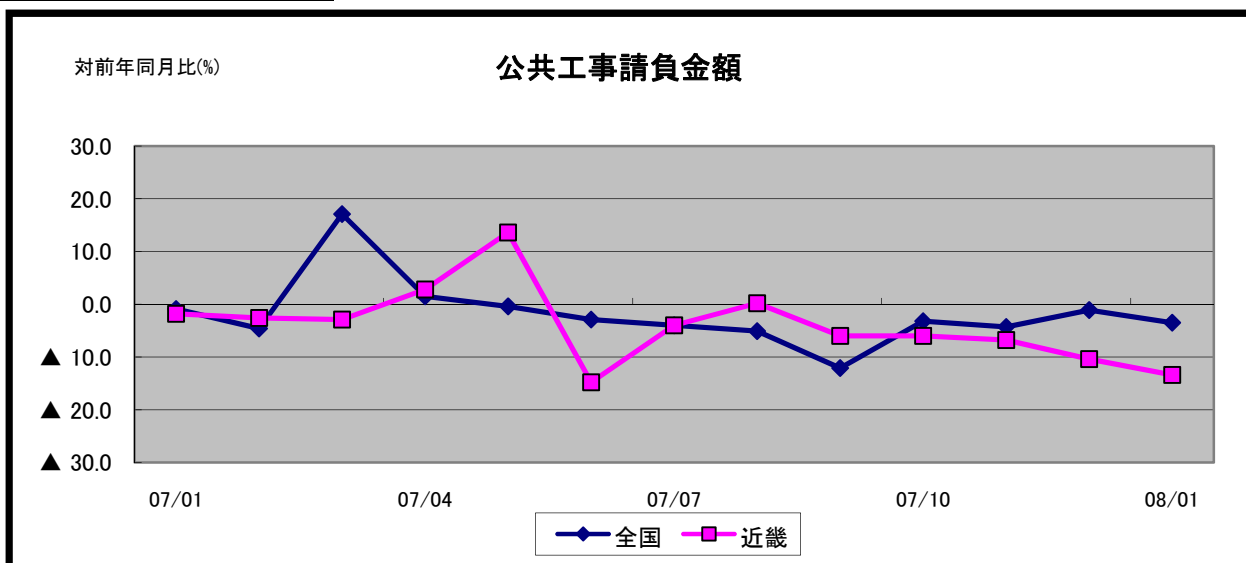
●設備投資（財務省、近畿財務局調べ）

7 四半期ぶりにマイナス



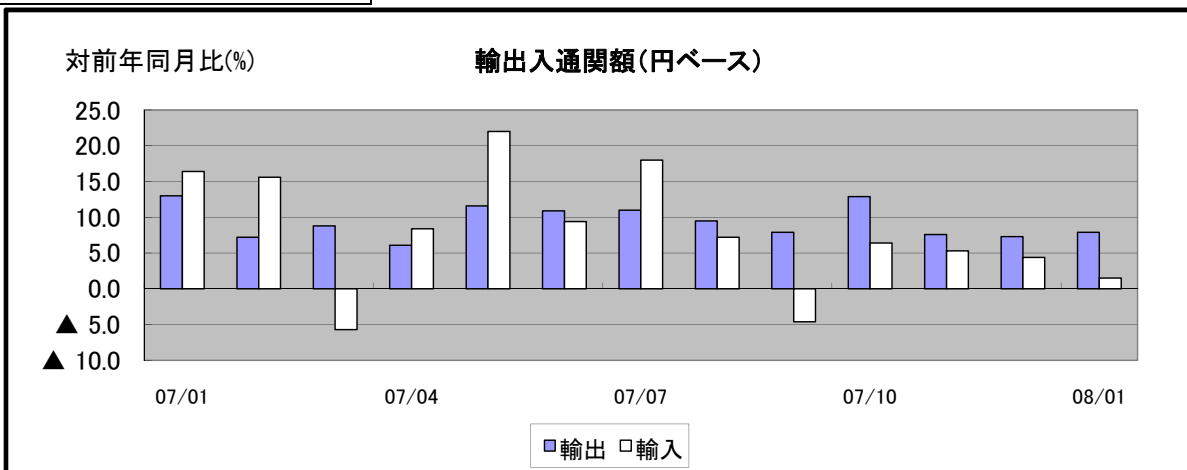
●公共投資（建設業保証事業協会、西日本建設業保証㈱調べ）

5カ月連続でマイナス



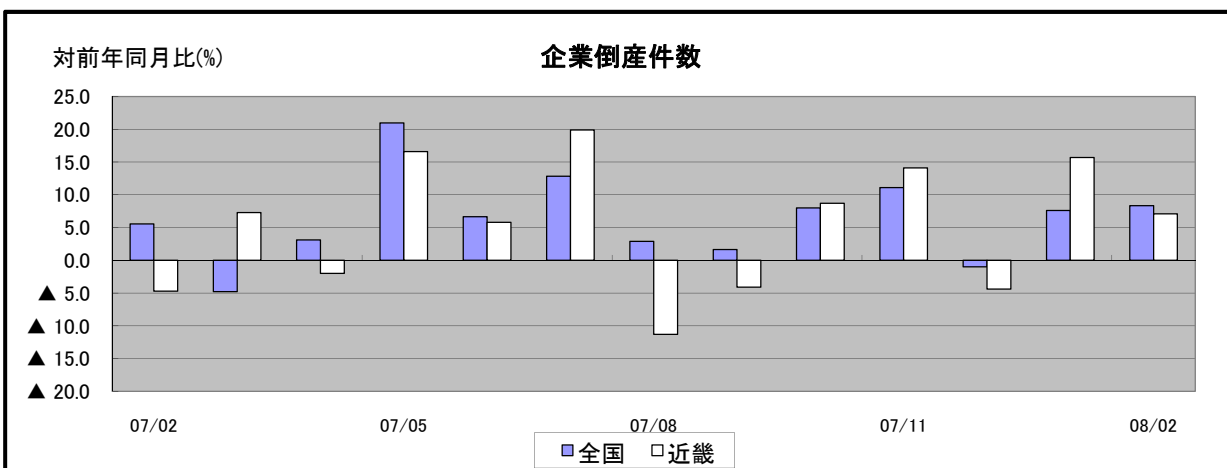
●輸出入（財務省、大阪税関調べ）

輸出は70ヶ月連続の増加



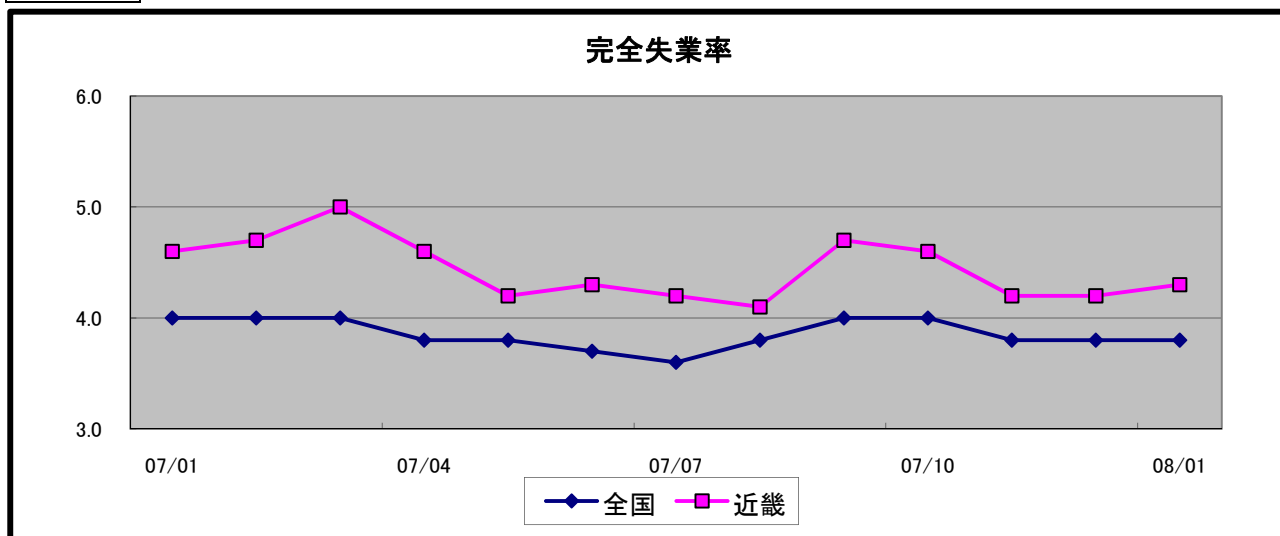
●企業倒産件数（㈱東京商工リサーチ調べ）

2か月連続の増加



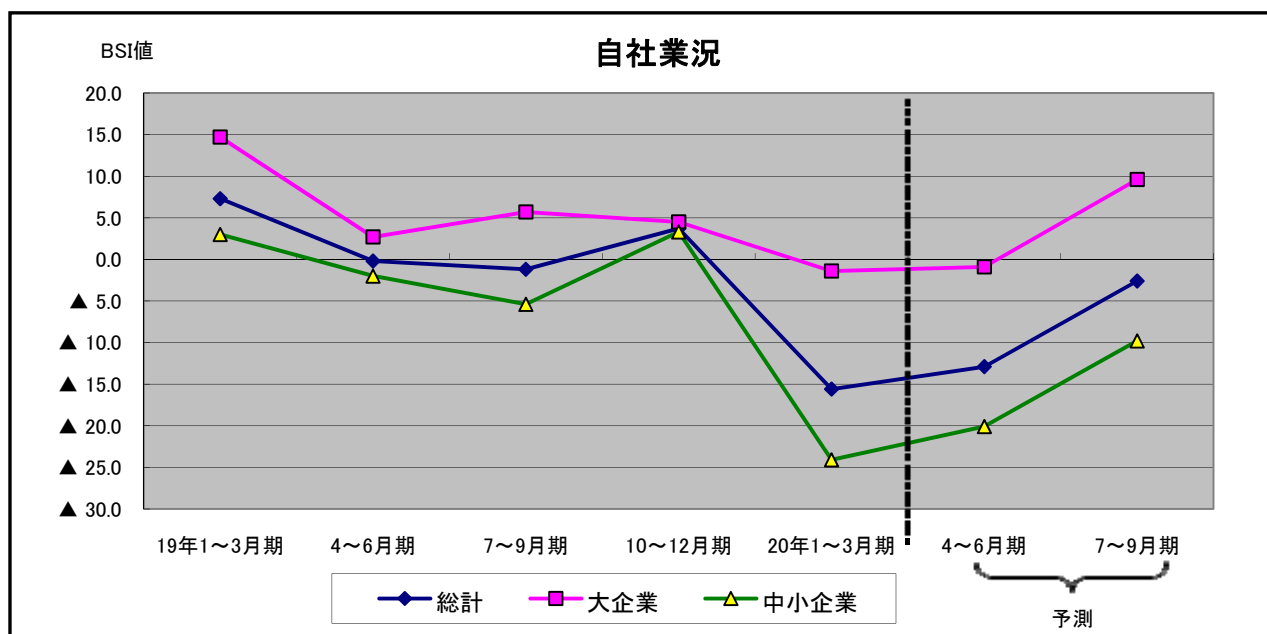
●雇用情勢（総務省調べ）

横ばい



●経営・経済動向調査（大阪商工会議所、関西経済連合会調べ）

企業規模に関わらず下振れ、先行きも弱い



*19 年 1～3 月期、4～6 月期、7～9 月期、10～12 月期、20 年 1～3 月期は実績。20 年 4～6 月期、7～9 月期は予測。

* B S I 値＝（前期に比べ「上昇」と回答した経営者の割合）

－（前期に比べ「下降」と回答した経営者の割合）

以 上